

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291800116		
法人名	SOMPOケア株式会社		
事業所名	SOMPOケア東金小規模多機能		
所在地	千葉県東金市堀上8-1		
自己評価作成日	令和 5 年 6 月 23 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	令和 5 年 7 月 27 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設は2008年11月。10年以上勤務の職員も在籍している、歴史ある事業所です。
 事業所として目指していることは、3つあります。
 1つ、利用者様の利用者様らしい生活をお手伝いさせて頂くこと
 2つ、職員が、明るく、仲良く、楽しく、働ける職場であること
 3つ、地域に根差し、地域交流の盛んな事業所であること
 ご興味を持って頂けた方のご相談、見学、同じ想いを抱いて頂けた方のご応募、心よりお待ち申し上げます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は系列施設から4月に転任し、4ヶ月が経過したところであるが、着任以来当事業所の特徴・持ち味や課題を整理し、今後の改善に繋げようとしている。コロナ禍で家族や地域等との連携も制約せざるを得ない状況が常態化してきたが、コロナも5類に移行となり、支援のあり方についても見直しが必要と考えている。昨年1年間で利用者の6割が入れ替わり、家族の意識の変化もあるので、状況を踏まえて、経験豊富な多くの職員とともに、地域の高齢者が自宅での生活が可能な限り継続できるようにサポート体制の一層の充実を図りたいと考えており、これからに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 事業者様で記入 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の現状に合わせて、臨機応変に対応できていると思います。	法人(SOMPOケアアグループ)の経営基本方針(経営理念・ビジョン)と行動指針が掲示され、毎月の定期会議やWEB研修を通じて思いを共有している。事業所のデイサービス・訪問介護・宿泊のサービスを通じて、理念に基づく利用者支援を目指している。		
2	(2)	SOMPOケア東金小規模多機能 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウィルスの影響が大きく、令和2年5月、初の緊急事態宣言以降は、地元での交流自体が、開催されておりません。	自治会には加入しているが、コロナ禍を通じて地域との交流は出来なかったが、5類移行後の交流を模索している。新任挨拶を兼ねて市内の他の事業所を訪問し、情報交換を開始した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記内容のように、積極的な活動ができておりません。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルス感染拡大防止の観点から、開催自体を見合わせております。	コロナ禍では外部の有識者の参加は要請せず、事業所関係者のみで年6回実施した。利用者状況、行事報告・定例研修や開催した行事等を議事録に記載している。5類移行は外部の方に参加をお願いして対面方式での開催を予定している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウィルス感染拡大防止の観点から、開催自体が少ないですが、WEB含めて開催された際には、積極的に参加しております。	市の窓口は高齢者支援課である。生保受給者の状況報告も兼ね社会福祉課を毎月訪問した際にも立寄、情報交換している。5類移行は市の主催で事例検討会が実施され参加し、情報交換している。。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含めて、身体拘束のない援助が実践できております。	虐待防止・身体拘束廃止委員会を毎月開催して、職員の意識の見直しを実施している。身体拘束の必要な利用者はいないが、スピーチロック等による不適切な接遇・言葉づかいの乱れなどは特に指導している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修で学び、万が一の際には、社内に相談窓口が設置されております。			

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者のみに留まっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得を得られております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様と、管理者、職員の中は良好で、意見を伺い、運営に反映しております。	利用者は車で10分以内の方が殆どで、送迎の際に家族の意見を聞いている。独居者の家族は遠方地にお住まいの方が多く、メールや電話で要望を伺っている。職員は日頃のサービスの中で利用者の要望等を聞き、管理者へ報告し問題を共有している。	家族アンケートでは、利用者の暮らしぶりの報告や介護計画の報告(設問2・3)に対する評価もあまり高くない。「もう少し詳しく説明して欲しいなどの」意見もあるので、今後の家族とのコミュニケーションの取り方についてご検討頂きたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者宛には相談窓口が設置されており、管理者は、日々の業務で職員からの意見を重要視しております。	日常の会話の中で要望や意見を確認している。申送りの際や、月1回の事業所会議を通じて要望や意見を聞き対応している。職員から、直接法人本部へ苦情を伝える仕組みもあり、結果は支店経由で監理者へ報告される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年次評価や、タレントパレットといったツールにて、整備されております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に、毎月の研修に力を入れて、運営しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人の研修会にも、積極的に参加するようしております。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の気持ちに寄り添うことを、一番考えております。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様が一番と考えておりますが、ご家族様のご支援を含めて、ご本人様のご支援になると考えております。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自事業所会議では、適切な援助が難しいとアセスメントした場合は、他法人、他業態のサービスでも、ご提案させて頂いております。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様にも、可能な限りで業務を手伝って頂き、暮らしを共にするように運営しております。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様、ご家族様ともに、よく話し合い、関係を築いております。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めさせて頂いております。	小規模多機能の利用者は在宅生活をされているので、住み慣れた家と人との関係はそれなりに継続している。必要な時には別居している家族と連絡を取り、地域での生活が継続できるように支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様にもご協力して頂き、ご支援させて頂いております。	

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご本人様、ご家族様の経過をフォローさせて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独特の希望や意向にも、安全面に配慮しながら、寄り添っております。	利用前にアセスメントを行い本人、家族から生活歴参加歴や心身機能と活動等を聞いて情報を記録している。独居で受診が困難な場合などにはやむを得ず通院同行をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様らしさを一番に、サービス利用、経過の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画、難しい場合は、ご本人様の希望に沿って、折衷案を取り入れる様しております。	利用開始時のアセスメントを基に、サービス居宅サービス計画書が作成されており、簡潔にサービス内容や担当事業者等が記載されている。	利用者がその人らしい暮らしを実現する為、家族・本人・介護職員がチームとなり本人の思いを見つけ出す努力が必要と思われる。日頃の利用者本人の思いや要望を聞き出し、チームとして検討して、より具体的なサービス計画書の作成を目指して頂きたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自社のプライベートサービス等も取り入れ、柔軟に対応しております。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	シルバー人材等の活用を実施しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるように支援しております。また、必要ご利用者は往診に立会うようにしております。	基本的にかかりつけ医の受診は家族が連れていくよう依頼しているが職員が通院介助を行うことが多くなっている。独居の利用者が自宅でかかりつけ医の往診を受ける時に同席して注意点を聞くようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に合わせて、訪問看護の利用も調整しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、退院時カンファレンスへの参加で、関係性作りを積極的に行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、ご本人様、ご家族様と相談し、自社以外のサービスも合わせて、話し合いを行っております。	事業所の指針に沿って、利用者と家族に事業の方針を利用開始時に話している。当事業所では制度上訪問医療は受けられないが、医療的行為が必要でなければ看取りは可能であると説明し、家族と話し合って支援している。しかし、重度になった利用者は特養等に移られる方が殆どである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は研修で行っておりますが、実践する機会が極めて稀なため、実践力の工場は緩やかとなっております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、地域の情報共有を定期的に行っております。また、社内でも食品の備蓄等を行っております。	6月と12月に火災と地震を想定した自主危険訓練を実施した。自治会に加入しており回覧板で地域の情報を把握している。食品と水、衛生品を7日分備蓄している。	介護事業所の事業業務計画(BCP)の策定義務化が求められている。早めに情報収集を行い計画作成に取り組んで頂きたい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いは、乱れてしまっている時があり、大変申し訳なく思っております。	会議時に接遇・マナー研修を行い、職員が利用者に話す時や職員同士の言葉遣いに注意しており、互いに気持ち良く過ごせる環境作りに取り組んでいる。	研修や自己啓発により、職員一人ひとりが日頃の言葉遣いと行動を振り返り、適切な接遇・マナーで利用者支援に取り組んでいきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望、自己決定を一番にご支援させて頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペース、希望を一番にご支援させて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみにも、ご本人様らしさを一番にご支援させて頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事の準備は、衛生面の観点から、職員のみで行っております。	SOMPOケアフーズの調理済み冷凍パックを温めて、台所で調理した汁物とご飯と一緒に提供している。栄養バランスと食べやすさが配慮されて彩りある食事となっている。季節の行事食も同様に提供されて利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは、給食会社により管理されております。また、個別の状態に合わせて、別途、ご支援させて頂いている利用者様もいらっしゃいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔維持も、個別性を持って援助させて頂いております。また、必要に合わせて、歯科医から直接ご指導いただく機械を作っております。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄、排泄自立に向けて、ご支援させて頂いております。	全体的に自立している利用者が多く、食事の前後などトイレへ誘導して排泄の支援を行っている。介護記録に水分摂取と排泄を記録して状況の把握をしながら支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬での対処が多く、飲食物の工夫、運動への働きかけは、十分にはできておりません。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、事業所の都合の時間でご支援させて頂いております。	家庭的な一般浴槽室と重度の方用の機械浴槽室の2ヶ所あり、介護度の高い利用者も安心・安全な入浴を楽しむ支援が行われている。アンケートで入浴の希望を聞いてくれると好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠に関しては、ご本人様のご自由な時間で睡眠頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援は小まめに状況把握を行い、医師に情報共有させて頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様、一人一人に合わせて、ご支援させて頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの影響が大きく、令和2年5月、初の緊急事態宣言以降は、外出支援は、散歩や買物等の必要最小限の援助にとどまっております。	デイサービス利用者が送迎の途中に可能な時には買い物に立ち寄り必要な物を買、できるだけ本人の希望に沿った支援を行っている。	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご理解力が極めて低下した利用者様以外は、ご本人様が管理されております。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人様のご希望に沿って、ご支援させていただきます。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>環境への意識、清掃には工夫を凝らしております。</p>	<p>リビングは明るくテレビ前のソファでくつろぐ姿が見られた、食食用テーブルが配置され、洗面台とトイレ、通所の利用者の荷物を置く木製のロッカーがあり分かりやすい配置である。季節の飾りや塗り絵の作品などが掲示され居ここの良い空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>1人になれる場所、共有できる場所をご用意しております。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>宿泊スペースは、固定ではないため、共用部として、個別性は設定できておりません。</p>	<p>在宅生活者が宿泊する居室である為、ベッドと衣類等の収納ケース、TVが設置されており、個人の方は着換えの衣類等である。室内は移動時の安全性と清潔の保持に配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手摺等を設置して、安全に自立できる環境となるように努めております。</p>		